



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2012年1月1日

1月号 第120号

奈良・人と自然の会



興福寺南円堂手水鉢

- * 新年を迎えて
- * リレー随筆「お元気ですか」
- * 例会報告：「京都植物園」「春日山紅葉」
- * ならやまくレポート・自然観察・癒しの散歩道
- * 佐保自然の森植樹祭く写真・感想
- * 自然俳句・自然料理・「つぶやき」
- * とりシリーズ・働き者のアリ君・地域情報
- * 1・2月の行事案内：「新春講演会」「室池探鳥会」
- * 今月の表紙・ペン画によせて

			1
			2
		3	4
5	~		7
8	~		11
		12	13
14	~		16
		17	18
			19

平成 24 年

壬辰（ミズノエタツ）年 新年おめでとうございます。

皆さま方には健やかに新年を寿ぎ 希望の明日へと 祝福なされた事と思います。穏やかな そして未来を楽しめる 1 年でありたいと思います。

昨年 11 月 ブータン国王が、さわやかな風を伴って王妃と共に 日本に来られました。国会での素晴らしい演説は、とても印象に残るもの 心に響くものがありました。

被災地小学校を訪れた国王は、国旗に描かれた「竜」の物語を引用し「皆さんの心の中に人格という竜がいます。年をとって経験を積むほど竜は大きく強くなります」と話しかけられたと 記事にありました。目先の事や、経済事情などに振り回されている私達に何か失っているものは無いですか と問いかけているようにさえ感じました。

自然というものは やさしく抱きしめたり、人の心を癒したりとなくてはならないものですが、時に激しい、厳しい一面を見せ付け人間の増長を戒めるときがあるように思います。

昨年日本を襲った大震災と大津波、そして原子力発電所事故 これらの事は、久しく日本人の心から離れてしまっていた「何か」を思い起こし 心に微妙なしかし大きな変化をもたらしたのではないのでしょうか。人智を超えた何かがあり、それを敬い、畏れ、崇めた 心を持つこと 振りかえりが大切ではないのでしょうか。

新年を迎え 心新たに自然と向き合って自己を見つめ 活動していきたいと思います

奈良・人と自然の会 会長 阿部 和 生





「ルー随筆 お元気ですか！」



日々思うこと

石井保雄

朝、目が覚める、毎日のことである。今日も元気に朝を迎える事が出来たことは、何事においても幸せな事である。

1日の生活が始まるのである。まず、顔を洗う、自分の顔を鏡で見る。明るい顔、つまらなそうな顔、うきうきした顔、笑っている顔、毎日見る顔であるが、その時、その時の感情によって顔の表情も変わってくる。

私も顔の表情によって、その日の気分が変わり、なんでもないことに腹を立てて、相手に気分を悪くさせることもあるので、自分自身も朝の顔の表情を見て、明るく楽しい顔でその日の1日を過ごせるように心掛けている。

毎日同じような日々を過ごすうちに70歳という古希を迎えた。むかしならば「人生70古来稀なり」と云われるような歳を迎えた。自分では、まだまだ若いと思っているが、制度的には前期高齢者であり老人扱いである。いつまでも元気で楽しく人生を送ることが大事であると常々思っている。

現在は地元自治会の役員として、また、広陵町の文化財ガイドに所属して町の文化財の案内を行っています。

広陵町は、馬見丘陵公園を含め多くの古墳、神社、仏閣等歴史的遺産が存在しています。

1日を充分、楽しんで頂けると思いますので機会があればお越しいただければ幸いです。

これからの人生を楽しく過ごすためにも日常の生活を大切に「毎日元気でいたい」と日々思うことである。

燕岳



高須良子

十月中旬、北アルプスの燕岳に登ってきた。登山口の中房温泉は黄葉の中に埋もれて見えた。ここ数年、山に登る時いつも思うのだが、来年は登れるだろうか？と言う思い、今回は季節のせいか山の中にいる喜びが心に沁みた。二年前スイカを食べた合戦小屋は閉まっていたが前のベンチで昼食をとる。

好天に恵まれ、遠くに富士山、近くに大天井岳や槍ヶ岳を見ながら、ゆっくりゆっくり登る。低木のシラタマノキ・スノキ・ウスノキなどの可愛い実を一粒ずつ頂いて仲間と味わい、小動物になった気分だ。途中、下ってくる中年男性に出会った時、唐突に「貴方はなぜ山に登るのですか？私は今後悔しています・・・」と問われた。男性より先に元気に降りて行った女性は奥さんで、彼はよっぽどしんどかったのかな？男性が過ぎ去った後、勝手に想像して思わず笑ってしまった。が、さて私は何故山に登るのだろうか？と思う。山荘ではイワヒバリ三羽に出迎えられ、山小屋でほんと一息ついた。燕岳の頂上は360度のパノラマが広がり、3千メートルの山々の姿は圧巻だ。近くの岩陰には数日前降った雪が残っている。頂上から山小屋に戻ると槍ヶ岳に夕陽が沈んでゆく。人気の高い燕山荘の夕食を山ガールと一緒に戴く。翌朝も天気にも恵まれ、ご来光を受けてうっすらと赤らむ山々に遠い昔の思い出が重なる。無事下山し、温泉に浸かりながら見る山肌は一段と黄葉が進んだように見えた。



京都植物園の紅葉と植物観察

平岡 久美

参加者 18 名 (順不同) 阿部・藤田・青木・山中・中西・鈴木(け)・木村・高本・八木
村上・小森・弓場・古川・寺田・川崎・桜木・岸谷・平岡

昨年に続いて植物園を訪れたのは、「植物園の紅葉は素晴らしい」と聞き、次回は秋にと我が会のメンバーのリクエストに答えてのことでした。西谷さんが、植物園をフィールドに活躍していらっしゃる「京とおうみ自然文化クラブ」の谷口さんに紅葉に良い時期を選んでいただいていたので実施です。

寒さを心配したお天気は、見事な観察日和となり、お昼には芝生で車座になってお弁当を食べられるほどの、ぽかぽか陽気となりました。

この日の案内は、谷口さんと清水さんです。

まず、谷口さんからタケ類の説明をしていただきました。タケ類にはタケとササとバンブーがあり、バンブーは地下茎が横に這わず株立状で、葉の葉脈が平行になっているのが特徴だということです。ムツオレダケやホテイチクのような珍しいタケもあって、皆さん興味深く聞いて観察していました。



タケの説明をしていただいたあと、2班に分かれて園内の植物観察をしました。

昨年春、見事なハンカチを見せてくれたハンカチノキに、丸くて青い実がぶらりぶらりと下がっていてびっくり、季節を変えてくることの楽しさを感じました。イチゴノキには赤くてかわいい実を、ツクバネが追羽根そっくりの実を、ケンポナシも工作好きの人にはたまらないだろう実をつけていました。



さて、お目当ての紅葉はいかがだったのでしょうか。イチョウが見事に黄葉し、フウやカエデの紅葉は、少し早めでしたが期待通りの姿を見せてくれました。カエデの仲間は種類が多く、葉の形、色などが異なり、楽しみが多いのですが、とりわけハナノキは、葉の裏が白く表が赤いので、見方を楽しむことができました。



何箇所かカシノナガキクイムシの被害にあった木が切り倒されていて、周りは明るくなっていましたが、ちょっと複雑な気持ちにさせられました。

春もよし、秋もよし、四季折々いろいろな楽しみ方をさせてくれる京都植物園に、また来たいと思いながら、帰路に着きました。

☆12月5日(月)27名の参加でした。
ハイキング日和の中を出発です。

川井さんから「頭塔」の説明を聞いています。

我々一行は破石町でレトロ調のバスを降り、
1分ほど歩いて頭塔入口に着きました。事前に
勝田さんが頭塔の管理人に連絡をされていたので、
すぐに鍵を開けてもらって
いよいよ『謎のピラミッド』と呼ばれる頭塔
と対面しました。767年に東大寺の僧実忠が
築いた仏舎利を納める塔であるようです。日本
では五重の塔など木造のものが多く、ネットで
調べたところ、同様の石造りの塔は行基が築い
た土塔が堺市にあるそうです。我々は大きな
タラヨウの木に見送られて頭塔をあとにしました。

(井戸)



『頭塔』



やっと着いた!『火床』で楽しい昼食

火床からの景色

みんなの家を探しました??



昼食後高円山(461m)に登頂しました。

それからの首切り地藏から春日山遊歩道の紅葉は
日本でNo.2でなくNo.1でした。(訂正します)

参加者の皆さんのわあ!わあ!わあきれい!!!!
の感動の声ともみじのあの色の美しさ、空気のおい
しさを紙面ではお伝え出来ないのが残念です。

みなさんの感動を胸に忘年会場へ移動しました。

係からの急な案内のお願いにもかかわらず快く
引き受けてくださった弓場さんありがとうございました。
(担当 弓場・勝田)



☆忘年会☆ (担当 寺田・勝田)

28名の参加でした。今年1年の活動を振り返りながら、和気あいあいの楽しい時間を持ち、盛況のう
ちに終わりました。

(文責勝田 緑)

ならやまプロジェクト・レポート 23年12月

11月24日(木) 晴 参加者 45+3名

午前中は「佐保自然の森」植樹祭のテント、長椅子等の撤収作業。奈良県立大生3名参加。本日は新蕎麦祭！蕎麦クラブのメンバーは朝から総動員。昼食は打立ての蕎麦（60人前）と天婦羅、カッポ酒などで盛り上がる。午後から彩りの森の植樹（楓6本）を試みにおこなった。



（講師の蕎麦打ちを熱心に見つめる会員）

12月1日(木) 晴 参加者 36名

国土緑化推進機構からの感謝状を前に記念撮影の後、全員一斉に彩りの森の植樹をする。紅葉、桜計68本を植える。残り53本。椎茸ホダ木伐採、豌豆の保持ネット掛け、花壇の準備（上層、追肥）をする。皇帝ダリアが咲き誇って、晩秋のならやまに華をそえていた。



12月8日(木) 雨

雨のため本日の活動は中止。それでも18人の会員の姿を見る。椎茸の収穫多数。

12月15日(木) 晴 参加者 43+4名

本日は秋の収穫祭である芋煮会！奈良県立大学からインターン生3名も参加。先週は雨で彩りの森の植樹が出来なかったが、本日一斉に食材の芋ほりと残りの楓、桜の植樹をおこなった。



（彩りの森の植樹が完了！記念撮影）

昼食は待望の芋煮と大根炊き、漬物、煮物と色とりどり、カッポ酒も程よい爛で秋の収穫祭を祝った。一段落したところで、「ならやまの歌」を作曲された一村好郎先生を囲んで、暫し、ならやまの歌のご指導を受け、懐かしい歌をみんなで歌い楽しんだ。午後の作業はなし。



（藤田 記）

ならやま里山林自然観察レポート

ならやま里山林花だより

山中 笙子

12月1日(木) 12月に入りならやまは紅葉のまっ盛り。ベースキャンプから眺める里山林も赤や黄色や褐色の色様々に染まり、葉っぱの風に舞い落ちる様子は見ていて飽きることがありません。

「彩りの森」植樹の折、水路沿いにツリガネニンジンやソバナに似た水色で釣鐘形の花が咲いていました。図鑑で調べてみるとサイヨウシャジンの様ですが確信が持てません。茎、枝、葉、花に毛があり、茎に角が、葉は下の方で輪生上の方では互生で鋸歯あり。ガクは細く花は先で広がり5裂。どなたか教えて頂けませんか。

草花*イヌガラシ、コナスビ、ウシハコベ、ノミノフスマ
ペニバナポロギク、ワレモコウ、サイヨウシャジン
オニノゲシ

木の実*フユイチゴ、マンリョウ、ヒサカキ、ナンテン
ハンノキ(雄花)

紅黄葉*イロハモミジ、コシアブラ、コナラ、クヌギ
ヤマウルシ、ヤマコウバシ(枝に枯葉がしっかり残る)

花壇*センニチコウ、ヒメツルソバ



サイヨウシャジン

ならやま鳥だより

小田 久美子

12月12日。初参加の羽尻さんを加え、3人で7種27羽を確認しました。

<癒しの散歩道>

新しき年への再会

谷川 萬太郎

目覚める新しき朝を迎え
おだやかな海の調べ優しく
海鳥啼く声澄んだ空に響き
静かに下りて吐く息の中に
ああ雪降るロマンのように

すでに陽は東に昇り明るく輝き
静かな風そよぎ白波光りて泳ぐ
過ぎし日々は時を渡る河に乗り
白く消えたその跡を追う影もなく
恋し故郷の景色は新しき春を待つ



どんな物でもピタリ、捕まえたら離さない

木村 裕

今話題のならず者、カシノナガキクイムシのならやまベースキャンプ地への無断侵入に私たちは神経を尖らせていますが、なにぶんにも小さな虫で見つけるのは至難の業で頭を悩ませています。

虫発見の手段として、森林技術センターのアドバイスで粘着トラップ（商品名：カミキリホイホイ）を使ってみることにしました。このトラップはゴキブリホイホイの粘着紙の変形で、粘着剤のついた厚紙をバンド状に樹の周りに巻きつけ、樹幹上を這い回って幹内に侵入しようとするカシノナガキクイムシを捕まえるものです。

7月から9月にかけて「ならやま里山林」と「ならやま自然の森」内に合計45箇所トラップを貼り付けて虫の飛来を待ち受けました。その結果、カシノナガキクイムシの捕獲は幸いにもまったくありませんでした。このことからならやま地区での発生はまだないのか、非常に密度が低いものと推定されます。

今回用いたトラップの粘着力は非常に強力で、雷が鳴ろうが、嵐が来ようがくっついた物は絶対に離さないのです。樹幹をうろうろするいろいろな生きものが捕まりました。その一部を森林の生きものに成り代わって紹介します。

捕まったのはほとんどが昆虫でしたが、はちゅう類、くも類、多足類もかなり捕まりました。野鳥は若干の羽毛を残してうまく逃げのびたようです。

はちゅう類では、トカゲ、ヤモリ、カナヘビがかなり捕らえられました。また、ジムグリ、シロマダラなど、普段の活動で見つからないヘビも捕まりました。

網を張るクモ類は捕まりませんでした、

徘徊して獲物を探すクモ類がかなり捕まりました。その中でも大型の足の長いコアシダカグモが何匹もくっついていたのは気味悪いものでした。このクモは一般家庭の壁などを走り回ってゴキブリを餌としているアシダカグモの野外版です。



昆虫類では、小さなアリが非常に多く、1つのトラップに数百匹もくっつくなど足の踏み場もないほどになっていたのもありました。このアリの狙いはトラップに捕らえられたはちゅう類、コアシダカグモ、キリギリス類などの大型の生きもので、トラップに捕まって悲鳴をあげている仲間の上を渡って獲物に到達し、皮や肉を小さく噛み切って運びだし、最後には骨だけが残っていました。少しの犠牲はあったものの、美味な肉を手に入れ今頃は盛大な忘年会を開いていることでしょう。

その他アブラゼミ・ヒグラシなどのセミ類、モリチャバネゴキブリなどのゴキブリ類、オオクチキムシ・キマワリなどの甲虫類などいろいろの昆虫が捕まり、私たちは森林の生きものたちからは激しいブーイングとひんしゅくをかいました。

ごめんなさい！！

最後にこの調査・報告にあたり、菊川年明さんの精力的な協力があつたことを申しそえます。

「佐保自然の森」 第一回植樹祭

★ 2010年11月12日（金） <1年前>



（駐車場、遊歩道整備前）

☆ 2011年10月20日（木） <1カ月前>



（全員で草刈り、除伐木の伐採、整理、ゴミ拾い）



★2011年11月19日（土）＜植樹祭＞

☆2011年11月24日（木）＜植樹後の風景＞



（植樹祭 実行委員長挨拶）



（来賓の植樹）



（左から阿部会長、川井顧問、山菅風致景觀課長）



第一回植樹祭を振り返って(ご意見)

・雨にもかかわらず 実施できたことは事前のテント準備や人の配置図・役割分担がしっかり出来ていたことに尽きると思います。

スタッフシャツは、見栄え良く間に合ってよかった。来賓の方々に名札の準備が欲しい。

マイクスタンドが欲しい。アンプの向き音量などに注意が必要、聞こえにくかった部分があったように思います。送迎の道などの案内の方々は、時間に広場に戻れたのでしょうか？大変であったと思います。

・あいにくの雨でしたが、大きな事故も無く無事終了できたのは、事前に周到に準備した賜だと思います。雨の中参加いただいた方々にも好意を持ってお帰りいただけたと思います。本当にご苦労様でした。受付を担当していて困ったことがひとつありました。お持ち帰りいただく袋が2種類になっていて、事前に把握していなかったのが最初若干戸惑いました。事前のお手伝いができなかったのが原因ですが、当日お渡しするものは1種類で全員同じものを用意したほうがよかったかなと思いました。

・責任者の采配が良かったせいもあり、それぞれの会員が力を併せて準備し、当日は分担されたパートを責任もって実行されたことが大きな成功につながったものと思う。残念ながら案内を担当していたため、前半のプログラムをみることができませんでした。私の担当した誘導パートでは、案内板の→表示が図案のようになり、指示方向が分かりにくかった。もっとシンプルにすべきであった。とりこし苦労かもしれませんが、配布したドングリ、うまく根がでたのだろうか？翌日、我が家で土に埋めていた種をみると、根はすでに10cm ほど伸びていた。

・わが会のならやまBCの活動を広く地元近隣の方に知っていただき、皆さんと絆を作れたことは素晴らしいことだったと思います。

この絆を、来年以降も「ころころポット」等を通して続けていければと思います。

近隣の子供たちが、「佐保自然の森」に親しみを持ってくれたらいいですね。

・大雨の中、多数の来賓の方が来られたのは大変ありがたいことで奈良・人と自然の会関係者の熱意が通じたものと思う。

植樹は十数名の来賓者が一斉に行ったが、これは一人一人順番に植樹し、それを他の人が後方で見守るようにした方がよいのではないかなと思う。

悪天候のためとは云え、こどもたちの植樹がなかったのはさみしい。

・あの雨の中、来賓の皆様方よくおいでいただきました。感謝です。雨のおかげでグランドの水はけの悪いのが分かりました。今後これが課題かなと思います。木々が茂って四季の花が咲いて、野鳥たちが遊びにくる風景を見たいものです。

・私の担当は、お客様の車を駐車場に案内することです。雨に対する対応は完全体制で臨んだので、来賓の方には迷惑をかけなかったと思っています。植樹祭全体の進行状況はわかりませんが大雨の中大変うまくいったと思っています。担当者全員が参加してリハーサルを行うことも必要と思います。

・佐保自然の森の東北の隅に以前からある駐車場ふうの空地があり、今回の植樹祭ではマスコミ用の駐車場に充てましたが、この場所をすっきり駐車場らしく整備してはどうでしょうか。整備する場合は、もう少し拡張の余地もありそうですから、20台くらい収容できるようにしたらどうでしょうか。

今後、佐保自然の森を維持管理するためにならやまBCとの間の行き来が従来以上に頻繁になるでしょうから、コースをもう少し整備することが望ましいと思います。佐保自然の森が行き止まりの施設ではなく、ならやまBC方面やならやま自

然の森コースにつながる散策コースとなるように整備してはどうでしょうか。この場合、コースの整備に加えて、佐保自然の森にも案内図を掲出することが望ましいと思います。

・第一回行事は、企画から実施まで精力的な活動をされた方々に心から敬意を表します。
地域に開かれた自然の森ということで、地元の方々をお招きして盛大に開催されました。
これを機に地元の方々がこのエリアにじっくり馴染んで頂くことが肝要です。これからの一年で地元と当会のコラボ活動が出来ようになれば更に良いですね。第2回目は式典よりも、ゲストも会員も皆一緒になって植樹するのが望ましいと思います。

・植樹祭の運営は大変立派でした。責任者の方が全霊をこめて取り組んでおられる姿に敬服しました。会社生活での様々な行事を思い出しました。
ただ、私の率直な気持ちはあそこまでは必要があるのかということです。もっと単純に、みんな集まって仲良く植樹をしよう、近隣の皆さんもお越しください、といった程度のものではいいのではないかと、来賓もセレモニーも要らないのではないかと思いました。
ましてや雨であれば中止や延期が当たり前で、冷たい思いまでしてする必要があったのかなと感じました。もちろん当事者・責任者の意図するところや思いは分かるつもりです。しかも私は自分では殆ど何もしなかった立場で、こんなことをいうのは論外かもしれません。でも、我々はシニアのボランティア団体であり、あまり拘束されることなく、自分の意思で自由におおらかに活動できる集団をめざすべきだと思っています。あまりに組織だった、団体としての規律正しい姿が何で必要なのかなと思います。

・来賓にスコップで土をかけさせるのではなく、(平城旧跡で県がしたように)竹筒でかけさせる方式に変更しては如何でしょうか？
イベント実施前に、用具の整備進行状況をチェッ

クする必要があったと思います。別件ですが第1回に植樹した木に、灌水は誰かやって呉れているのでしょうか？

・土砂降りの中の植樹祭。雨、雨また雨の1言手さぐりの「第1回植樹祭」天気がよければ、出席された方々に今までと違う整備された里山の景観にもっと感動して頂けたと思います。
ここまで荒地を見事に整備した「奈良・人と自然の会」の皆様に感謝します。
来年以降の植樹祭は、整備された自然公園の中で「植樹祭会場」に蕎麦、豚汁、自然工作のイベントも一考だと思います。

・平成22年9月頃、奈良県風致景観課から、管理についての打診があり、幹事会等での協議を重ねた結果、引き受けることになった。11名で構成されるプロジェクト・チームを立ち上げ、名称やコンセプト等について意見交換を重ねる一方、元奈良高校の吉岡校長先生とセキスイの畑氏に現地に赴いていただき、どのような植栽が相応しいのか、中長期的な視点から、生態系の復活や地域に密着した森づくりについてプラン作りを行いました。

平成22年末には、不法投棄ゴミの撤収、徐伐樹木の選定等の調査に着手しました。そして、平成23年3月末に探索路が完成し、少しずつ森の全体像が伺えるようになりました。

地域の皆様方のご協力のもと、2haの自然地域を守り、育て、愛しみ、憩いの場所へと導いてゆきたいと考えています。

地域の植生であるドングリの苗をお育ていただくプロジェクトとして、「ころころポット運動」の取り組みを始めました。地域の皆様方のお力で知らず知らずのうちに、一つの大きな成果が生じるような活動にできれば、この上ない喜びであります。次なる機会には子供達が主役となる「植樹祭」にと夢は広がります。

~~~~~

内容は要約させていただきましたご了承下さい。

(藤田)

11月例会。晩秋の京都植物園。病癒えて川崎さんより  
投句が届く。

あみがさ<sup>たけ</sup>茸は静御前の化身かな

川崎かずえ

金明竹の叢で発見したとある。高貴の女の被る市女笠をイメージ  
したのだろうか。比喩の利いた佳句になっている。

カルメラの甘き匂いや枯落葉

川崎かずえ

これも比喩（たとえ）の一句。最近あまり口にしなくなった  
カルメラの匂いと色。落葉みちを歩く晩秋の一景を切り取る。

十周年行事。佐保の森 育樹祭。雨の中盛大な祝典となる。

秋霖や贈る言葉は祝育樹

鈴木 未一

雨繁く苗木の凜と育樹祭

鈴木 未一

作者は当日の祝祭の立役者。難しい情景を十七音に凝縮されたのは  
流石。

里山二景。晩秋から冬へ、彩りからモノクロの世界へ移る。

そば祭の思ひの残るもう一杯

川井 秀夫

今年の蕎麦の収穫は上々ときく。名人の打った蕎麦は格別。  
お代わり三杯できなかったのは残念。句はやや川柳調の感。

風景のまんなか<sup>だいこ</sup>にあり大根引く

川井 秀夫

農閑期に入る。冬野菜の青さが救い。スーパーでは高値。  
今宵は「でんがく」で一杯やりますか。





## 自然をちょっぴり いただきま〜す 西谷 範子

早春に川の土手などに黄色いジュータンが続いているのを見た事があると思います。

冬の間には何もなかった場所にその季節だけ現れる饗宴です。

セイヨウカラシナが自然繁殖して全国の土手などに大繁茂しているのです。

もともと外来種ですが、川の土手や野原に野生化して広がりました。その広がった場所のアブラナ科のものと交雑して土地土地で形や色などが少しずつ違います。

土手に大群生をもたらすセイヨウカラシナは茎も細く花びらも細長いです。

この葉や花は名のとおり辛いですが、ここでは1月に芽出した若葉を見つけて食べます。春のそれと違って、霜や雪をかぶった若葉はやわらかく、辛味も少ないように思えます。できるだけ葉の広い株を見つけてください。

きざんで塩を振ってもむと漬物として食べられますが、茹でて食べると辛味がやわらぎます。茹でて水にさらしてから、かつおぶしを振っておひたしにしたり、胡麻味噌和えやピーナッツを細かくきざんで醤油とあえた物も先取りした春を感じられます。

いろいろ工夫してみてください。



雨：今日は仲間が多くて頼もしいわ。アゝゝ青竹支柱のテントでは、シートの天井に早速うけ溜まって戯れとる。あちこちで乳牛のミルクタンクみたいに垂れ

下がって、大丈夫かいな。

白テント：さあ、何ぼでも降れ降れ、ワシはがっしりした寄せ棟や、来賓の方々には心配ないわ。

砂利：ウワー、えらいこっちゃ、山側からようけ流れて来よる。道端を掘って下

方へ流してるけど間に合わんがな。ジワーと来賓席の方へ入って行くで。

雨：大事な植樹祭やのに気の毒したな。懸命にカップ着て準備や接待したはんに、ほんまに申し訳ない。

苗木：もう十二分に水はもろた、ゲップがでそうや。一刻も早よ太陽を拝みたいとこやけど、しゃあないな。雨さんは自然現象の旅ガラス

や、私等もよう似たもん

や。大きくなって朽ちて、いずれは土に帰る。何の心配もいらへん。

雨：今日は悪いけど一日辛抱してもらおう。皆さんはもう、すっかり我々を気にしてない様子。

立派なもんや。先の連中はち

ゃんと挨拶していったかいな。又お逢いすることもあるやろし。これからどこそこへ行きますと、ちゃんと言葉かけて行かんとな。

えっ！！知ってるって？そうやな今の時代、天気予報も100%近く当たるもんな。

(佐保自然の森第一回植樹祭)

### つぶやき

竹本雅昭





## 聞きなし

小田 久美子

代表的な聞きなし＝ウグイスの「ホー ホキョウ」皆さんにはそう聞こえていますか。仏教が伝来して「法華経」という単語を知ってから「法 法華経」と聞こえるようになった。それまで古代の人々は「ウグイー」と聞いていたと読んだことがあります。例えばコジュケイ。日本人は「チョットコイ チョットコイ」の他に「母ちゃん怖い 母ちゃん怖い」と聞きなしますが、沖縄の米軍基地の人たちは、「people pray(人々は祈る) ピーブル プレイ」と聞いています。犬の鳴声をわたしたちは「ワンワン」と聞き、英語圏の人は「パウワン」と聞く。自分たちの言語で聞くという証明ですね。ことほど左様に聞きなしには文化・時間・空間で違いがあります。ホオジロの「一筆啓上つかまつり候」



「丁稚餐付け何時つけた」「ツンと五粒二朱負けた」などは面白いですが今や絶滅に近く、「ゲンペ イツツ」 ショツツ」「サッポ ロラーメン ミソラーメン」が好評です。メジロの「長兵衛忠兵衛長忠兵衛」はあまりに有名ですが、他に「千代田の城は千代八千代」「チルチルミル青い鳥」もあります。どれも早口で可愛く言ってみましょう。フクロウは「明日は晴れるぞ 糊つけ干そ」「五郎助奉公 ボロ着て奉公」「五郎助奉公 ただ奉公 三年たっても無駄奉公」と時代劇調。シジュウカラは「ツッピン ツッピン」「ツツピー ツツピー」だけでなく「親死ね 子死ね 四十九日の餅つけ」と恐ろしいことを願うかと思えば、「土地 金 欲しいよー」と聞いたりするそうです。オオヨシキリは俳句の夏の季語「行々子」ですが「ギョギョシ ギョギョシ ケシケシ」とけたたましく鳴き、それを「長興寺 長興寺 草履片足なんだんだん 斬らば斬れ斬れ」と聞こえるそうです。これも時代劇の世界。キセキレイは「鍋も茶碗も壊れてしまえ 親死ね子死ね 鍋釜壊れ 家のぐるり海になれ」なんとまあ、美しい姿からは裏腹にそんな風に鳴いているとはつゆ知りませんでした。ツグミの仲間のアカハラは「キョロキョロ チー」と美声で鳴く優等生なのに「カモンカモン シュー」とふざけたり「競輪競輪でパー」と非行に走るものもいます。ルリビタキはならやまにも冬やって来て礼儀正しく「ルビタキだよ ルビタキだよ」と名乗ります。最後にホトトギス。以前「東京特許とか局」というのがありましたが、そんな役所はないとよく云われやはり絶滅か。「テッパンカケカ」や民話からの「弟切ったか」もありますが、私はもっぱら「ホトトギス」と鳴きますと案内しています。因みにケリもヒヨも鳴声からの命名です。面白い聞きなしが多い中、紙面に限りがありますので独断と偏見でのチョイスです。あなたにはどう聞こえていますか。

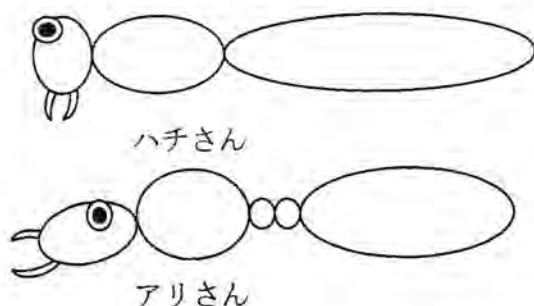
## 働き者のアリ君、冬支度におおわらわ

—やさしい昆虫講座（第15話）—

木村 裕

働き者のアリさんは、演奏活動にうつつをぬかしているキリギリスさんを横目で見ながら、冬越しの準備に大忙しですが、このアリさんは何の仲間でしょうか？ 答えはスズメバチやアシナガバチなどのハチさんです。ハチさんには羽根がありますがアリさんにはありません。しかし婚姻活動の時期にはメスもオスも羽根があり、たくさんの嫁候補や婿候補が乱舞し、家庭の灯りにもわっと押し寄せます。これを見てシロアリ（別の機会に紹介します）と見間違えがえる方が多いようです。

基本的にはハチには羽根と針があり、アリにはありません。ハチもアリも頭、胸、腹が顕著に区分されていますが、アリは頭が大きくやや扁平であること、腹部の一部が細くなってくびれがあることで見分けられます。



お嬢さんアリは合コンでよき相手を見つけると交尾により、一生使えるだけの精子をもらい受け、羽根を噛み切って身軽になって木のうろ、隙間、地面の中などに最初の新居を設けて閉じ籠もります。そこで最初の卵を産み、孵った幼虫を自分の体内に蓄えた餌のみを与えて一人前の働きアリに育て上げます。成長した最初の働きアリは外への通路をまず開いて餌探しに出かけ、その働きアリから餌を貰い受けたお母さんアリは次の卵を産みます。その後しだいに家族が増え、住处も広くなって真の女王アリとなり、もろもろの雑用

からは開放されて産卵のみに専念します。

ほとんどのアリは針を持っていませんが、ハリアリというグループのアリはみんな針を持っていますので手で触れると刺されます。多くのアリは、針はなくてもみんな鋭い牙をもっていて、獲物に噛み付いたり、かじり取ったり、運搬用にと活用していますので、手で触れるとかまれることがあります。日本に住んでいるアリは比較的温厚ですので、噛まれても痛い！という程度ですみますが、枯れ枝に住んでいるアリに噛まれますと、その部分がイボ状に赤く腫れ、痒く、引っかくと傷となって快復に手間取ります。

熱帯地方には小さな小さなアリですが噛まれると、その部分が赤く腫れ、非常に痒くなり、うっかり引っ搔くと化膿して快復までに少なくとも1ヶ月はかかります。また、道端に砂を盛り上げて巣をつくるアリは、うっかりそこに踏み込むと怒り狂った数百匹のアリがわっと跳びだして物凄いスピードで足をかけのぼって太ももから下腹部に所かまわず噛み付き、非常に攻撃的です。

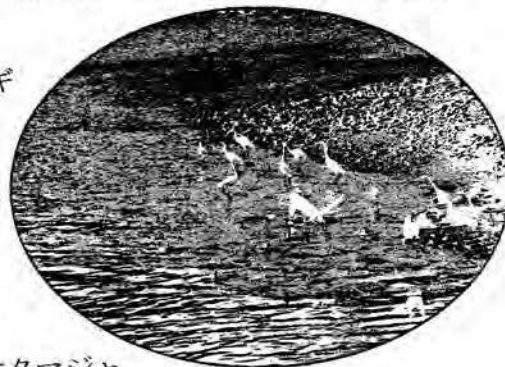
熱帯地方にいる行列をなして行進するグンタイアリも有名ですが、道筋に当たった生き物全てを食い尽くすというのは少し大げさかと思います。私も南アメリカに住んでいた時に何度もその行列に出くわしています。10～20cm程度の幅でアリが黒い帯のようになって絶えることなく続いています。しかもその列が1本ではなくて、川の支流のように何本にも枝分かれして流れるように進んでいます。昆虫やクモ、ヤモリでは捕まってしまうと思いますが、ネズミなどの足の速い動物では逃げ延びることでしょう。

★〈斑鳩〉モズをあま歩中に7羽見ました。たましく鳴いて電線に止まっていますでしょうか。



り見かけなくなりましたが、12月13日朝の散た。1羽だけが縄張りに侵入されたのか、けいしましたが、あとは黙って枝先・アンテナ・しました。今日はモズたちのいい日だったの

・白・黒逆転！！いつもはカワウの大群にダイサギがくっついている感じなのですが、13日は20羽のカワウに40羽近くのダイサギが取り囲んでいまず写真にもカワウが余り写っていません。ダイサギにはメリットがあるのですがカワウには迷惑なだけではないでしょうか。（勝田）



★〈樫原〉11月中頃 樫原の畑のペールにいたオタマジャクシ達次々に 挨拶もなく、いなくなってガッカリ。シッポはどうやってなくなったのか知れたかったのに・・・。

・同じ畑でぼんやり歩いていたら「何！ エッ！キジ！」そうです。私の目の前をキジが私を無視(?)してノコノコ歩いていたんです！50センチ位のとこだったのでほんとびっくりでした。悠然と土手をあがり上の畑へ消えました。（斎藤）

## 「例会についてのアンケート」実施にご協力ください！

例年1月に、新年度（4月～3月）の例会行き先年間計画を作っています。新年度の行き先を決めるためのアンケート実施にご協力ください。

当会設立10年を機に例会もより一層参加しやすく、楽しい企画を考えたいと考えています。今まで例会に参加したことのない方も、是非このアンケートにご協力下さい。例会には、ならやま活動に参加していない方ほど、参加していただきたいと考えております。

なおこのアンケートは、メールをお持ちの方には、すでにお願ひしております。メールをお持ちでない方は、本紙同封のアンケート用紙にご記入の上FAX等で担当までお送りください。よろしくお願い申し上げます。

担当；「24年度例会準備委員会」 寺田 孝

# 行事案内

※原則：前日午後7時前のNHK 天気予報で、降水確率(午前)60%以上の場合は中止

※当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません

## 『ならやま里山林プロジェクト1月・2月の予定』

場所 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR 平城山駅下車徒歩10分）

—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—

| 1月の活動日                 | 2月の活動日                   |
|------------------------|--------------------------|
| 5日（木）初出（新春餅つき大会）       | 2日（木）                    |
| 12日（木）                 | 9日（木）                    |
| 19日（木）                 | 16日（木）                   |
| 26日（木）                 | 23日（木）                   |
| 31日（火）（雨天予備日）          | 25日（土）公開イベント（椎茸菌打ち）      |
| （教育実習生受入日は12日、19日、26日） | （教育実習生受入日は2日、9日、16日、23日） |

集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 15時

交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場8：23発 高の原行（平日・土曜）

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8：32発 JR 奈良行（平日）

8：30発 JR 奈良行（土曜）

①、②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品など

・弁当、飲み物、軍手、（作業用具は現地で用意）

\*環境保護のため、コップ・箸・碗などは各自でご持参下さい。

活動内容

- ・里山整備、環境整備、花木植栽等の景観形成、植生調査、椎茸作り
- ・復元した田畑での「旬の野菜・健康野菜の有機栽培」、堆肥作り、土作り
- ・「市街地にある里山」を体験する各種イベント、学校授業「田圃の教室」
- ・広域里山パトロール（保全、ナラ枯れ点検、生物調査など）

連絡先： 古川（祐） 鈴木 藤田

## ★ならやま・バードウォッチング

☆日 時：1月10日（火） 9：00 集合

\*参加の方は日程にご注意ください

★集合場所：ならやま駐車場

☆小雨決行：判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。

★担当者：小田 菊川

## 設立10周年記念 新春講演会

「世界遺産 春日山原始林の未来を考える！」

へお越し下さい！

毎年1月に実施する「新春講演会」は、今年は10周年記念行事として  
広く一般の皆さんにも参加を呼びかけるオープン講演会としました。

世界遺産に指定されている春日山原始林の“森林生態系危機”という、  
奈良県民が見逃すことのできない大変重要な、興味あるテーマを取り上  
げます。

会員の皆さんにおかれましても多数のご参加をお願いいたします。

会長 阿倍和生

と き； 平成24年1月22日（日） 午後1：30～4：30

ところ； 奈良市上三条町 中部公民館 5階ホール

テーマ； 「春日山原始林の未来を考える！ ー森林生態系の衰退ー」

講 師； 大阪産業大学大学院

前迫ゆり教授、

大阪市立大学大学院

名波哲准教授

主催 奈良・人と自然の会

後援 奈良県農林部

詳細は同封チラシをご覧ください。

## 【2月の行事】

〈2月例会〉 室池探鳥会 カモと冬鳥



日 程； 2月8日(水) 9:00 集合

集合場所；近鉄生駒駅改札口

担 当；小田久美子

・勝田均

※ 詳しくは第121号会報(2月号)でお知らせします。

## 平成23年12月度幹事会報告

日 時：平成23年12月6日（火） 17:00～20:00

場 所：奈良市中部公民館

出席者：幹事18名

- (1) 会員数 127名
- (2) 第36回全国育樹祭に阿部会長が出席して、国土緑化推進機構「ふれあいの森林づくり会長賞」を受賞（全国で4団体、阿部会長が代表して授与を受けた）したことについての報告
- (3) 新春講演会（平成24年1月22日（日）、奈良市中部公民館で開催）の広報（チラシの作成及び配布）についての報告
- (4) ならやまコナラ林における粘着トラップによる生き物調査の結果報告
- (5) 彩りの森の植樹進捗状況の報告
- (6) 近大から要請のあるニッポンバラタナゴの放流は受入の方向で準備に入る。

### 表紙のペン画によせて

境 寛

辰は、十二支の5番目で、唯一の想像上の動物「竜」です。辰の方位は東南東、辰の刻は午前8時およびその前後2時間、辰の月は陰暦三月。「竜」は常用漢字で、「龍」は旧字体。竜は四神（青竜、朱雀、白虎、玄武）のひとつである。また龍は古代中国で神獣とされているため、中国では皇帝のシンボルとなっています。神社仏閣の手水鉢に、よく竜があしらわれていることがあります。興福寺南円堂前の手水鉢が竜です。鯉が滝をのぼって竜になったという故事にならって、今年は皆様には良い年でありますようにお祈り申し上げます。

編集後記：\*明けておめでとうございます。今年も皆さまに親しまれる会報誌を目指してまいります。引き続き投稿などご協力お願いいたします。なおメールでは11ポイント・明朝体・写真カット含めて1ページ以内を原則としています。締め切り日は毎月20日となっております。  
\*会報発送作業・編集会議日：2月号の作業は1月27日（金）午前9時から「西奈良ボランティアセンター」で行います。毎回多くの会員の方々のご協力をいただいております。今回もよろしく願いいたします。

奈良・人と自然の会：<http://www.justmystage.com/home/naranature/>

編集担当：勝田 均